

<金標準、金利との負の相関関係が崩れ、地政学的なリスク逃避需要・・・>



(出所：オアシス)

パウエル FRB 議長はサンフランシスコ連銀で開催されたイベントで「年内どこかの時点で利下げを開始するのが適切になる可能性が高い」と示唆し金価格を押し上げている。ただ ADP 雇用統計は 18.4 万人増と増加し、今年の FOMC メンバーであるカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁は「インフレの進展が失速なら、今年は利下げしない可能性もあり得る」と発言するなど、年内の利下げ回数予想が 2 回へ縮小している。特に雇用統計では、非農業部門就業者数が 30.3 万人増、失業率は 3.8% へ低下、平均時給は前年比で 4.1% へ低下するなど 6 月の利下げ観測は後退している。しかし金価格は米国 10 年債が 4.4% を超える上昇を見せても、NY 金は史上最高値を更新するなど金利の動きと負の相関関係が崩れており、今はイスラエルがシリアのイラン大使館を空爆しイランがイスラエルに対して報復を行う可能性が高く、北海原油が 90 ドルを超えるなど地政学的なリスクの高まりに反応するなど、今しばらく中東要因に重点が置かれ高値を維持する値動きに思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り上げ、**シグナル** も上昇している。また RCI では **短期** と **長期** が +90% を超えて維持しており、オシレーターは高値追いを示唆している。ただ日足と移動平均線と乖離は拡大しており調整安には注意が必要と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,445,000 円(2024 年 4 月 8 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 73,920 円(2024 年 4 月 8 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>